

マツノマダラメイガ

トドマツ，エゾマツ，マツなどの松ぼっくりに潜るイモムシ（幼虫）。最大長約22mm。体は濁った黄土色で背中は暗く紫がかる。背中には不鮮明な多数の暗い縦縞と赤黒い斑点がある。頭は赤黒い。

【学名】 *Diorcyctria abietella*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera)，メイガ科 (Pyralidae)

【分布】 北海道，本州；ヨーロッパ，北米。

【特徴】

マツノシンマダラメイガの幼虫に似るが，体の黒い斑点の部分が盛り上がらない点で区別できる。

【生態】

宿主：トドマツ，トウヒ属（エゾマツなど），カラマツ，マツ属，スギの球果。ときに若枝に潜る。

北海道では年1世代，ときに年2世代。幼虫で越冬。成虫は6月下旬～7月中旬に出現。

【被害】

球果の害虫とされるが，被害実態はよく分かっていない。

【文献】

1984. 鈴木重孝，駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場研究報告, 22: 85-129. (形態, 生態).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツノマダラメイガ meiga/matumada/kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/26.